



白糠町内で過去に見つけた大木の樹洞に、3年ぶりにエゾフクロウがすみ着きました。2022年2月以来ここは空き家でした。こんなに巣に適した樹洞をエゾフクロウがいつまでも放っておくはずがないと思い、私は暇さえあれば見に行っていました。

「どうせ今日もいないんだろなあ」と森に入ったある日、そこにはまさかの姿が! もちろん3年前とは違うエゾフク



白糠エゾフクロウ2代目



ある日、2羽並んでいた

PROFILE

六田晴洋 ろくた はるひろ

1986年生まれ。

2021年に白糠町へ移住。

大学卒業後、フリーランスの

カメラマンやディレクターとして野生動物や自然風景を撮影している。<https://rokutaharuhiro.com>



からでしょう。そんなことから白糠町の自然の豊かさを感じることが出来ます。

ロウですが、思わず小さな声で「おかえり!」と言ってしまいました。
そして後日。なんともう1羽!! どうやらつがいですみ着いているようです。もしかしたら今年はこの2羽の赤ちゃんを見られるかもしれません。私も様子を見に行く頻度を減らすので、安心して暮らしてほしいな

動物写真の価値とは
北海道にはいくつかのエゾフクロウの有名撮影スポットがあります。
エゾフクロウのすむ木を広い森から探し出すのはとても大変なので、手軽に撮れる場所に人が集まるのだと思います。エゾフクロウにとっても、巣に適した樹洞は決して多くはなく貴重

なものなので、たとえ多くの人が押し寄せて落ち着かなくても簡単には引越すことができません。やがて人々に囲まれることに慣れ、いつでも穏やかかわいらしい表情が簡単に撮れるので、そこはますます『有名撮影スポット』と化していきます。動物写真の価値とはなんだろう。これと似た現象によく出くわす北海道では考えさせられる

ことが増えました。
自分の足で苦労して探さないと想像できない、伝えられないことってたくさんあります。今回に関して言えば、3年もの間、この木にエゾフクロウが住み着かなかつたのは、きっとまだ私の知らない『いい木』が他にも少なからずあって、すみかに困っていない